

## 令和 7 年度第 1 回おうめ観光戦略推進懇談会会議録（概要）

## 1 日時

令和 7 年 7 月 3 日（月）午後 1 時 3 0 分

## 2 会場

青梅市役所 3 階教育委員会会議室

## 3 出席委員

千葉 千枝子 委員（会長）、竹内 俊夫 委員（副会長）、  
本橋 大輔 委員、林 英夫 委員、小澤 順一郎 委員、  
嶋田 俊平 委員、千保木 三紀子 委員、榎戸 敏文 委員

## 4 欠席委員

なし

## 5 傍聴者

なし

## 6 議題

(1) あいさつ

(2) 議題

ア 令和 6 年度観光施策のおもな実施結果について

イ 戦略に位置づけた個別事業の進捗状況について

ウ 観光客および市民アンケート調査結果の分析について

エ その他

(3) 次回の懇談会日程について

(4) その他

## 7 配布資料

資料 1 令和 6 年度観光施策のおもな実施結果について

資料 2 戦略に位置付けた個別事業の進捗状況について

資料 3 観光客および市民アンケート調査結果の分析について

参考資料 1 観光客を対象としたアンケート調査結果

参考資料 2 観光客を対象としたアンケート調査結果分析

参考資料 3 市民を対象としたアンケート調査結果

参考資料 4 市民を対象としたアンケート調査結果分析

8 会議録（概要）

発言者	発言内容
1 あいさつ (省略)	
2 議題（1）令和6年度観光施策のおもな実施結果について (資料1)	
会長	<p>各委員の皆様におかれましては、結果を踏まえ、市などがどのような改善・工夫を図るべきか、今後の対応について御意見などを賜りたいと存じます。</p> <p>それでは、次第の「2 議題（1） 令和6年度観光施策の主な実施結果について」、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、まず資料1をご覧ください。</p> <p>昨年度における観光施策のおもな実施結果をまとめたものになります。</p> <p>取りまとめた項目といたしましては、</p> <p>1つには地域の観光資源を活かした取組として、観光イベントの開催などとして、</p> <p>2つには、広報宣伝の視点として、観光客の誘致について、</p> <p>3つには、地域資源の維持・保全の観点で、観光地の整備として取りめております。</p> <p>それを踏まえた、来訪者の状況を4来訪者の状況でまとめたものであります。</p> <p>まず、「1 観光イベントの開催および協力」についてであります。</p> <p>令和6年度の主なイベントとして、5つ掲載いたしました。吹上花しょうぶまつりなどは実際にカウントした数と、花火大会などのように概数のものがありますが、おおむね増加傾向となっております。</p> <p>続きまして「2 観光客の誘致」についてです。</p>

	<p>(1) 観光キャラバンなどは、実施に現地に足を運んだPRとなります。令和6年度は、東京サマーランド、武蔵溝ノ口駅などの駅頭、すぎなみフェスタなどで、パンフレット配布などの観光PRを実施いたしました。</p> <p>(2) パンフレットなどは、(1)などで活用できるよう、パンフレット類を作製いたしました。秋季と春・初夏の観光誘致ポスターに、青梅観光ガイド、青梅丘陵ハイキングコースマップなどがあります。</p> <p>(3) インスタグラムなどとしては、SNSにおきましては、青梅ブルーの公式インスタグラムの投稿を精力的に行い、昨年度末時点でフォロワー数が6,766人となり、1年で約4,000人のフォロワーを獲得しました。併せて、WEB広告でも観光PRを行いました。</p> <p>続きまして、「3 観光地の整備」についてです。</p> <p>霞丘陵ハイキングコース上において破損していた道標1基を更新したほか、青梅市シティプロモーション課で管理しております御岳苑地駐車場や御岳一丁目駐車場などの照明LED化工事を実施いたしました。</p> <p>最後に「4 来訪者の状況」についてです。</p> <p>令和5年度は2,000万人ほどの来訪者がおりましたが、令和6年度は2,130万人ほどとなっております。なお、このデータは、ヤフー・データソリューション「DS. INSIGHT」、つまりスマホの情報を利用したビッグデータを活用したシステムを市が利用しておりまして、それを利用し市が分析したものになります。令和7年6月よりシステム側のデータ推計にかかる仕様変更があったため、観光戦略に掲載している数値よりも大幅に増えております。概ねの傾向として御確認ください。</p> <p>事務局からの説明は以上となります。</p>
<p>会長</p>	<p>市がこれまでに取り組んできたイベントなどについての報告でした。何か質問やご意見、改善点などの指摘等をいただ</p>

	きたいと思います。御意見等のある方はいらっしゃいますか。
委員	インスタグラムのフォロワーが増えており素晴らしい。6月頃から投稿のトーンが変わってそこから「いいね」の数も増えているが、何か意図があつてのものか。
事務局	映像等の編集に時間がかかってしまっていたため、毎日更新に手間がかかりすぎていたため、係員の負荷を減らしながらもタイムリーに旬の青梅をみれるという意図を持ちながら、投稿回数を増やすことを意識して改善を重ねている。
委員	ありがとうございます。 回数だけでなく観光名所や利用者が観たい情報を発信されているのもフォロワー数が増えている要因ではないかと感じる。フォロワーが3万人にも達すれば無償で広告が打てるのと同じ効果も得られるので素晴らしいことだと思う。
2 議題（2）戦略に位置付けた個別事業の進捗状況について (資料2)	
会長	続きまして、次第の「(2) 戦略に位置付けた個別事業の進捗状況について」です。新年度開始から3か月であります が、進捗を確認したいと思います。 それでは事務局から説明をお願いします。
事務局	それでは、資料2をご覧ください。 前回の議題にも挙げさせていただきました戦略に位置付け、令和7年度以降の事業計画について、現時点の進捗状況をご報告いたします。 数がありますので、進捗があつたものなどをピックアップして報告いたします。 まず、「基本戦略1 持続可能な観光地づくりの推進」になります。 施策1 持続可能な観光地経営の実施では、2つの段に分かれています が、観光客と市民に対するWEBアンケート調査の実施です。令和6年度に実施したWEBアンケート調査

結果については、この後に御報告いたします。また、本年度は、令和8年1月頃実施する予定であります。

施策3 観光施設の整備と維持管理では、昨年度に続きまして御岳交流センターのLED化工事を実施してまいります。

ページ代わりまして、ハイキングコースの整備を行います。青梅丘陵ハイキングコースでは、7月下旬または8月上旬に路面修繕と枯損木伐採を予定しております。

次に「基本戦略2 インバウンド対応の推進」についてです。

施策2 インバウンド向け受け入れ環境整備では、外国人向けガイドの作成として、これまで作製した「歩き道マップ」の更新に合わせて、内容を見直し、英語を併記することで進めております。

ページ代わりまして、「基本戦略3 市民、事業者と一体となったプロモーションの展開」についてです。

施策1 OmeBlueによる地域プロモーションの推進では、青梅市としてのブランディングとしてOmeBlueを活用しておりますが、より一層の周知を図るため、OmeBlueグッズの作成を進めております。今後のイベントにおける景品などで活用予定であります。

PRイベントへの出展では、資料記載のとおり出展し、青梅のPRに努めてまいります。

施策2 レスポンシブルツーリズムの推進では、TOKYO サステナブルツーリズムプラットフォーム構築事業について、連絡協議会を発足し、3回の協議会を開催し、7月上旬に支援委託事業者を決定したうえで、事業を進めていく予定であります。

施策4 多様な媒体での情報発信では、青梅ブルーインスタグラムでの投稿として、R7.6.24現在で投稿数は60回、ストーリーズは85回以上と本年度も精力的に発信を行ってお

	<p>ります。登録者数1万人を目指しております。</p> <p>次に「基本戦略4 観光資源の高付加価値化による収益力の向上」についてであります。</p> <p>施策1 観光資源を掛け合わせたコンテンツ開発では、NHKのばけばけの放映を踏まえ、妖怪イベントを実施いたします。仮称「青梅の妖怪と伝説と七つの不思議」として、9月1日から11月30日までの3か月間に7つの事業を準備中であります。</p> <p>①妖怪講演会は9月7日に、②妖怪デジタルスタンプラリー、③妖怪フォトコンテスト、⑦インスタグラム妖怪特集は、3か月間、④妖怪クイズラリー、⑤妖怪謎解き脱出ゲーム、⑥妖怪探しイベントにつきましては月替わりで実施予定であります。</p> <p>ページ代わりまして、施策4 地場産品を活用した土産品や商品開発では、青梅ブルースイーツ&amp;ドリンク開発事業を展開いたします。青いスイーツなどを提供いただける事業者と協力し、7月19日から約3か月キャンペーンを行う予定で準備しております。</p> <p>大変、簡単ですが、事務局からの説明は以上となります。</p>
会長	新規の取組ですが、何か質問やご意見、御指摘などある方はいらっしゃいますか。
委員	ハイキングコースの枯損木の伐採について、矢倉台から下に降りた街を一望できる見晴らしの良い場所があるが、そこにも枯れ枝などが落ちており歩きにくさを感じたので、メインコースだけでなく周辺へ伸びる支道についても処置をお願いしたい。
事務局	<p>青梅市で管理している部分は順次処置を進めていく。今は特に危ないコース沿いの枯損木について優先的に処置を進めている。</p> <p>またメインコースから外れた宮ノ平へ降りていく道などは、倒木などのご連絡をいただき次第、職員が確認に向かっ</p>

	て対応を進めている。
委員	青梅丘陵ハイキングコースの一番景色が良い場所（矢倉台から宮ノ平へ降りていく途中）の木が伸びて視野が狭くなってしまっている。過去には市の職員が休日に自ら整備をするなどしていたが、ぜひ今後も整備を進めて欲しい。
事務局	
委員	基本戦略1 施策2の中で、国際認証取得・同水準へとして5つ以上の先進自治体例をまとめるとあるが、具体的にどの地域の自治体例に注目している等あれば教えて頂きたい。
事務局	まだどこをモデルとしていくか勉強中でまだご報告できる状況ではない。
委員	NHKのばけばけの放映を踏まえた妖怪イベントについて、これは雪女を中心としたイベントを考えているのか？
委員	元々のきっかけは雪女伝承の地というところがあるが、雪女だけだと広がりやに欠けてしまうため、その他の青梅に伝わる伝説なども踏まえて魅力を高めて青梅への来訪者を増やしていきたい。
委員	妖怪講演会の実施場所は市役所だったりたまぐーセンターのような公共施設で行うのか、それとも昭和レトロ博物館など来訪された方がワクワクするような場所で行うのか。
事務局	会場は市役所2階の会議室で行う予定。たまぐーセンターは予約がとれなかった。
委員	基本戦略2、施策2 インバウンドの受け入れについて、外国人向けのガイドは紙で作成するのかデジタルマップのようなもので作成するのか。
事務局	基本は紙での作成となるが、PDF版なども作成しWEB上でも閲覧できるような工夫をしていきたいと考えている。
委員	セルフガイドで周るただ英訳しただけのガイドではなく、ストーリー性を持たせたガイドを作成すると外国人の方も

	周遊しやすいのではないかと思うが、いかがでしょうか。
事務局	今年度は難しいが、今後の工夫でストーリー性を持たせたものを作成していくなど青梅にきて迷うことのないようなガイドを作成できないか勉強していきたい。
委員	インバウンド話について、奥多摩方面に電車で行くと観光に来た方よりも横田基地あたりに住まわれている家族の方とかが多く見受けられるように感じるが、実際のところどれだけ他国から観光として来日されている方が青梅に来ているのか。
事務局	正確な情報を把握できていない。ただ他からも同様な感覚を持っていたという話を聞いている。 一方で東京を起点に宿泊している方が青梅に来訪しているということも考えられる。いずれにしろ詳細は確認がとれていない。
委員	東京で働いている方が多いという意見も聞く。釜の淵公園の河原を散歩していると東南アジア系の外国人が多いという感覚もある。そういう方達はあまりお金を落とさなくても遊べる場所を選んでいるのかもしれない。
2 議題（3）観光客および市民アンケート調査結果の分析について (資料3)	
会長	続きまして、次第の「(3) 観光客および市民アンケート調査結果の分析について」、事務局から説明をお願いします。
事務局	昨年度に実施した観光客および市民アンケートについて、前回の懇談会の際には、速報をお知らせいたしました。今回はその分析結果をご報告いたします。 資料3として、分析結果を整理いたしましたので、説明については資料3をもっていたしますので、参考資料1から4につきましては適宜御参照いただければと存じます。 それでは、資料3「観光客および市民アンケート調査結果の分析について」をご覧ください。

まず、「1 観光客向けアンケート調査結果の分析について」になります。

「(1) 一人当たりの観光消費額」につきましては、若い年代ほど消費額が大きい傾向にあることが分かりました。青梅市に來訪する目的は年代別でほとんど差がみられないため、純粹に若い世代の方が消費が多い傾向にあると考えます。よって、このアンケート結果からは、観光消費額を上げるためには若い世代を呼び込む施策に力を入れた方が効果的と分析します。

次に「(2) 観光客満足度」につきましては、年代による満足度に大きな差は見られませんでした。満足度が7点・8点とつけた方々が全体の約5割を占めており、また、満足度が5点・6点とつけた方々が全体の3割を占めております。よって、この5点・6点とつけた方々の評価をいかに上げるかが重要であると考えます。5点・6点の割合が多いのは、40代、50代に比較的多い傾向ですが、どのように評価を上げていくかは更なる分析や各イベントでのアンケートなどを活用して検討を深めてまいります。

「(3) 持続可能な観光に対する認知度」につきましては、年代別にみると若い世代の方が認知度が高いことが分かりました。「持続可能な観光」や「JSTS-D」など高齢者にとって馴染みにくい言葉が多いことも要因にあると考えられるので、周知の仕方を工夫していく必要があるのではないかと分析いたします。

続きまして、「2 市民向けアンケート調査結果の分析について」になります。

「(1) 市民の観光おすすめ度」につきましては、8点以上が40.4パーセントであり、これに6点・7点のとつけた方々を加えると、74.5パーセントとなります。この6点・7点とつけた方々をいかに引き上げるかが課題となると考えます。この課題を解決するための糸口となりそうな意見を

	<p>まとめたところ、「交通利便の改善」「観光資源の整備」「飲食店の充実」「特産品の拡充」となりました。「飲食店の充実」と「特産品の拡充」については、先ほどお知らせいたしましたように青のスイーツドリンク事業で、押し上げていけないかと考えております。</p> <p>次に「(2) 市民の住んでいる満足度」につきましては、おすす度8点以 44.7 パーセントとなり、6点・7点と合わせると 78.7 パーセントとなり、この6点・7点とつけた方々をいかに引き上げるかが課題となると考えます。この課題を解決する糸口となりそうな意見をまとめたところ、「衣食住にかかる店舗の拡充」「市街地の街灯設備の拡充」となりました。市政全般にかかる要望になっております。本来、来訪者がお越しになることで、市民の誇りやスビックプライドが高まり、満足度が上がることを想定しているものがありますので、この点を踏まえたアンケートの改善も課題と認識いたしました。</p> <p>事務局からの説明は以上となります。</p>
<p>会長</p>	<p>おうめ観光戦略にかかる数値に目標にかかるものです。先ほどの(1)と(2)での報告内容を踏まえ、全体としてのご意見などでも構いませんので、御発言いただきたいと存じます。来年度以降に改善を図るには、予算措置も必要であると思います。本日の懇談会での御意見等が来年度事業にも影響がありますので、積極的に御発言いただきたいと存じます。御意見等ある方はいらっしゃいますか。</p>
<p>委員</p>	<p>若い世代ほど消費額が大きい、若い世代ほど認知度が高いというのは良い傾向じゃないかと考える。</p> <p>鳩ノ巣で Satologue を運営している経験上、一番の利用客は30～40代が一番多いが、20代の利用客も20%程いる現状に少し驚いている。そういった若い世代の行動を見ていると、モノ消費からコト消費へうつる傾向にあるとおり、その時々やその時しかできない体験にお金を惜しみ</p>

	なく落とす場面が多いと感じている。そういった経験をインスタなどにアップしながら楽しんでいるように見受けられる。これからの世代に対しては単に観光地情報を発信するのではなく、体験できる場所などを発信していくことが大事ではないかと考える。そういったことを踏まえて今後の情報発信の仕方や KPI 指標などがあれば教えて欲しい。
事務局	モノ消費からコト消費へ傾向が移っていった認識はもっているが、具体的な KPI 指標などは設定していない。今年には妖怪イベントやスイーツ&ドリンクなど見て終わるものではないイベントも実施しながら実証していくため一歩を踏み出したという状況。スイーツ&ドリンクでは食べ飲み歩きだけではなく、来年もまた青梅に足を運んでもらえるような工夫を関係者含め検討しているところ。来年度以降は事業者さんも含めコト消費へ繋がる施策を何か生み出せないか勉強をしているところ。
委員	そういった意味では現在の基本戦略 4 にある施策 1 や施策 2 では妖怪イベント以外の予算がついていない状況なので、来年度以降はぜひ予算をつけて実現していただきたい。特にコンテンツ造成補助金制度には期待していて、より多くの事業者さんが考える新しいコト消費の企画を支援できるような体制が出来ると皆がそんなにお金をかけずに若い世代へアピールができていくのではないかと。
委員	基本戦略 4、施策 2 のファクトリーツーリズムについて青梅じゃないと体験できないものを PR することで、これに関連してファクトリーツーリズムに乗っかってくる事業者さんも企画も増えてくるのではないかと。
事務局	予算は現状ついていないが、担当も決めて現在勉強中。来年度以降、予算もつけて本格的に進めていければと考えている。
委員	オープンファクトリーをやっていると飲食系はすぐに予約が埋まっていくが、製造系はなかなか難しいのが現状。

委員	アンケートの中で青梅市を訪れた目的では圧倒的に自然と触れ合える、登山・ハイキングが多い。現在の観光戦略はそうでない部分を伸ばしていく施策が多いと考えられるが、青梅市の良いところを更に伸ばしていこうという考えは持っているのか？
事務局	現状から何もしなくてよいとは考えていない。一方で登山道やハイキングコースは市の施設ではないので、どの程度金額を掛けられるかという部分が大きい。今年も枯損木の伐採をしたり、景観に関する指摘も頂いたところですが、まずは来訪者が安全に楽しんでいただける環境を作ることを最優先に注力している。ある程度安全確保が出来た次のステップとして多くの方を呼び込むような施策を考えていきたい。
委員	見た方がワクワクできるようなPR発信としてインフルエンサーを活用してはどうか。
事務局	うめたまでは You Tuber 巻き込んだ発信も行っている。
委員	登山やハイキングは予習をして来訪する方も多いと思うので、それを専門にしているインフルエンサーを活用したPRも効果的ではないかと思う。
事務局	うめたまではインフルエンサーを活用している一方で、OmeBlue インスタグラムでは活用ができていない。ただ先日塩船観音寺までのアクセス動画を上げたときに閲覧数が非常に多かったので、登山やハイキングの予習動画みたいなものは確かに効果的と感じているので、今後のインスタ投稿に活かしていきたい。
委員	東京ハイカーのオカザキッチンさんという YouTuber が毎週のように奥多摩や飯能中心に登山ガイドの投稿をしている。今後、自然系の広報としてインフルエンサーを活用してもらってその反響を見てみたいという気持ちもある。
委員	御岳、沢井周辺では民泊が10件以上ある。民泊の利用客は大半がインバウンドという情報がある。なのでその辺りを

	<p>調べると来訪しているインバウンドの実態が分かるかもしれない。</p> <p>御嶽駅前にファミリーマートを招致するための嘆願書を作成した。あの辺りは買い物する場所がない。民泊は多いがほとんどが素泊まりなので、インバウンドの拡大のためにも買い物する場所がないという現実を市にも把握してもらいたい。</p>
事務局	<p>ファミリーマート招致の件は市も認識している。ただし市がコンビニを運営する訳にもいかないので、民間の方の努力を側面から応援する形になると考える。</p>
委員	<p>アンケート結果にもあるが青梅への来訪者は日帰りが多く宿泊する方が少ないように見受けられる。岩蔵の方でも休日は宿泊者がいる一方で、平日は稼働率がとても低くなっている。平日の稼働率を上げるために企業研修だったり学生やワーケーション誘致だったりと考えられる。コト消費の面からも御岳でラフティングした帰りに宿泊に来られる方もいるので、来年度はぜひコト消費への予算をつけてもらいたい。</p>
事務局	<p>TOKYO サステナブルツーリズムの中で企業研修などで閑散期の穴埋めができないか考えている。そういったものを平日にも展開できればよいかと思う。</p>
委員	<p>医療ツーリズムという言葉があるが、青梅には温泉もある、自然もある、という意味ではここを新しい事業にしても良いのではないか。</p>
事務局	<p>地域資源を観光資源に変えていくことが大事だと思っているので、医療ツーリズムというのも今後勉強していければと考える。</p>
委員	<p>医療ツーリズムについては、外国よりも日本の方が医療技術が優れているから来日してくれるというところがポイント。青梅市に他より優れた医療技術があるのかという点を考えないといけない。なのでそこで勝負するのではなく、自</p>

	然等を活かしたメンタルケアを中心に考えていった方が現実的ではないかと考える。
	海外では健康診断も高額なので、そういったところをターゲットにして医療ツーリズムを構築していくのも一つの案と考える。
2 議題（４）その他	
委員から意見なし。	
会長	続きまして「（４）その他」ですが、事務局から何かありますか？
事務局	特にございませぬ。
委員	川越に行ったときにお祭り会館があった。青梅も２～３０万人集まるお祭りがあるので、そういった施設を作るのも面白いと思った。
事務局	たまぐーを建築したときもそういった意見があったのは承知しているが現実的にはできていない。色々な背景があると思うが、要望はあるが実現できていないのは市では承知している。
委員	たまぐーで梅ロックがあつたり青梅街道沿いでアートフェスティバルが開催される。音楽に興味のある人は来訪してくれるが、それ以外の人にはあまり知られていない。富士ロックなどは若者がたくさんあつまる。若者をターゲットにするのであれば音楽を活かしたイベントを開催して、メディアを通したPRをするとより人が集まるのではないかと考える。例えば永山グラウンドであれば大声だしても近所の迷惑にはならないのではないかと考えるので少し検討しても面白いのでは。
3 次回の懇談会日程について	
会長	続きまして、「3 次回の懇談会日程について」、事務局から説明をお願いします。
事務局	次回は、10月～11月頃の開催を予定しておりますが、事務局から後日、日程調整についてメールをお送りさせていただきます。

	ただきますので、ご了承ください。 事務局からは以上です。
4 その他	
会長	最後に「4 その他」ですが、事務局から何かありますか？
委員	特にございません。